

知って
おきたい

Fantastic!
ファンタスティック!
漢詩ワールド

日本の 漢詩

宇野直人

第十回

この道ひとすじに

広瀬淡窓



桂林莊雜詠 示諸生四首 其二

道ふを休めよ 他郷苦心多しと
同袍友有り 自ら相親しむ
柴扉 曉に出づれば 霜雪の如し
君は川流を汲め 我は薪を拾はん

桂林莊雜詠 示諸生四首 其三

遙思白髮倚門情
留学三年業未成
一夜秋風揺老樹
孤窓欹枕客心驚

桂林莊雜詠 諸生に示す四首 其三

広瀬淡窓 七言絶句（下平・八庚）

其四

長鋏归来故国春
時時務払簡編塵
君看白首無名者
曾是談経奪席人

其の四

広瀬淡窓

七言絶句（上平・十一真）

長鋏 归来 故国の春
時時 務めて 払へ 簡編の塵
君看よ 白首にして 名無き者
曾是 是れ 談経奪席の人

隈川雜詠五首 其二

少女乗春倚画欄
哀箏何事向風彈
遊人停棹聽清唱
不省輕舟流下灘

隈川雜詠五首 其二

広瀬淡窓

七言絶句（上平・十四寒）

少女 春に乗じて 画欄に倚る
哀箏 何事ぞ 風に向つて 弾ずる
遊人 棹を停めて 清唱を聴き
省みず 輕舟の 下灘に流るるを

詠保命酒 為備後中村氏

保命酒を詠ず 備後の中村氏の為にす

広瀬淡窓

雑言古詩

東坡僅三蕉
太白乃一斗▲
惟酒不同量
我似蘇家叟▲
獨愛君家保命酒
僅傾半盞便怡神
請看甘露仙漿味
不屬鯨吸牛飲人

東坡 僅かに三蕉
太白 乃ち一斗
惟だ 酒は量を同じうせず
我は蘇家の叟に似たり
獨り君が家の 保命酒を愛し
僅かに半盞を傾けて 便ち神を怡ばしむ
請ふ看よ 甘露 仙漿の味
屬せず 鯨吸 牛飲の人

唐津

唐津

広瀬淡窓

七言律詩（上平・四支）

此是今遊第一奇
虹林風景久聞知
紆餘海学佳人態
偃蹇松含傲士姿
無復繁華道外域
獨特清麗庄西陲
尋思昔日投詩処
落雁声中立少時

此は是れ 今遊 第一の奇なり
虹林の風景 久しく聞知す
紆餘 海は佳人の態を学び
偃蹇 松は傲士の姿を含む
復た繁華の外域に通ずる無きも
獨り清麗を持て西陲を圧す
昔日 詩を投ずるの処を尋思して
落雁の声中 立つこと少時なり

七十自賀

七十自ら賀す

広瀬淡窓

七言絶句（下平・一先）

文章九命古来伝
常恐身無福寿縁
七十自嘲還自賀
不才翻被老天憐

文章の九命 古来伝ふ
常に恐る 身に福寿の縁無きを
七十 自ら嘲り 還た自ら賀す
不才 翻つて老天に憐まる